健康と美容に
弘前りんご
毎月5日は
「りんごを
食べる日」

農業ひろさき

2008年8月1日
（平成20年8月1日）
（第30号）

編集と発行
弘前市農業委員会
弘前市賀田1丁目1の1
☎(0172) 82－1638
印刷 ㈲新和印刷

霜・ひょう被害甚大

相馬市長ら 被害農家の支援を要望

４月中旬から５月中旬にかけての降霜、並びに５月26日と６月13日の降ひょうにより、本市のりんごは大きな被害を受けました。

この危機的状況を受け、相馬錩一弘前市長と藤田昭弘前市議会議長は６月30日、被害農家に対する支援を県に要望しました。

園地には関係者をはじめ、被害を受けた農家など多くの人が集まりました。

三村知事（左）に要望書を手渡す相馬市長（手前）と藤田市議会議長（奥）

市や県などの関係機関・団体で組織する弘前市農業生産推進協議会の調査によると、本市の被害面積は、六月二十日現在で、霜害が千八十九㌶、ひょう害が四千二十㌶の計五千百九㌶と、本市りんご栽培面積の56・7㌫に相当します。また被害金額は、霜害が約五億二千万円、ひょう害が約二十八億四千万円の計約三十三億六千万円が見込まれています。

三十日には、相次いだ霜とひょう被害の現地調査のため、三村申吾青森県知事が市内種市のりんご園地を訪れました。

相馬市長と藤田市議会議長は、三村知事に対して「弘前りんご」の今後の安定生産の維持・確保を訴え、要望書を手渡しました。

要望書には、病害虫防除に要する薬剤費の一部助成や経営資金の利子補給による被害農家の経営支援、被害果の販売対策など五つの要望事項が記されています。

三村知事は、被害農家に対するお見舞いの言葉を述べた上で「苦しい中だが、栽培管理をなんとか頑張ってもらいたい。県として販売対策などをしっかりと考え、トップブランドであるりんごを守っていきたい」と述べ、生産者を激励しました。

このほか県の担当者から、被害に対する今後の栽培管理について「来年以降の安定生産に向けて、樹体を健全に維持するための病害虫防除や徒長枝の整理など基本的管理をしっかりと行うこと」などの技術指導も行われました。

「弘前りんご」販売 協力体制強化を確認

六月三十日、市役所市長室において、つがる弘前（西澤幸清組合長）・相馬村（宮川正道組合長）・津軽石川（相馬千代治組合長）の三農協合同で、六月十三日の降ひょうによる被害農家への支援に関する要請書を相馬錩一弘前市長に手渡しました。

相馬市長と三農協の組合長は、被害果の販売対策などで関係機関と団体が一体となって「弘前りんご」を守るための取り組みを講じていくことを確認しました。

写真右より津軽石川、つがる弘前、相馬村の農協組合長

薬剤費の一部を助成

市では、４月から６月にかけての降霜・降ひょうにより被害を受けたりんご園地で、被害程度が30㌫以上の園地を対象に、来年以降の生産確保に必要な樹体維持を図るため、病害虫防除に必要な薬剤費の一部を助成します。

助成を希望される方は、各農協窓口に備え付けの「弘前市りんご緊急防除対策事業申請書」に必要事項をご記入のうえ、８月12日までに最寄りの農協各支店・本所へ提出くださるようお願いします。

■問い合わせ先
りんご農産課りんご係
（岩木庁舎☎82－1636）

販売体制の早期対応等を県へ要請

６月20日、市農業委員会（横沢由春会長）は、相次いだ霜とひょうの被害に見舞われた農家を救済するための要請を県に対して行い、今後の販売体制について早期に対応することなどを求めました。

県庁を訪れた横沢会長ら運営委員六人は、鳴海勇蔵県農林水産部長に対して、再生産確保に向けた病害虫防除のための防除薬剤費用の一部助成を要望する「霜害・ひょう害被災農家に対する救済措置に関する要望書」を手渡しました。

運営委員らは被災農家の窮状を伝え、生産意欲を落とさないためにも来年に向けた技術指導の徹底や関連情報の周知と、りんごの信用を失することがないよう被害果と良品果の販売体制について、「早期の対応が必要」と訴えました。

このほか、防霜ファン設置における補助対象の一層の要件緩和についても求めました。

要望書を受け取った鳴海部長は「本県のりんご栽培にとって類を見ない状況だ。幅広い観点から生産者が頑張っていける対策を取りたい」との考えを示しました。

運営委員らはこの後、青森県農業会議、本市の三農業協同組合なども訪れ、被災農家に対する支援を要望しました。

被害果を手に、
被災農家に対する支援を求める横沢会長

知識と技術に磨きをかけて

りんご病害虫マスター養成講座

六月十七日、(財)青森県りんご協会（福士春男会長）による平成二十年度りんご病害虫マスター養成講座が開講しました。

りんご病害虫の発生予察から防除までの知識と技術を習得し農薬に精通した人材を育成しようと、りんご産業に関係する市町村からの委託を受けて実施する養成講座は今年で三年目。今年度は十市町村から三十人、このうち本市からは十四人が受講します。

県りんご協会講堂で行われた開講式で福士会長は「安全安心な農産物が求められる中、本講座で得られる知識と技術を生かして地域で活躍してほしい」と受講生を激励しました。

受講生たちは、平成二十一年三月まで延べ十日間における研修で、主要病害虫の生態と防除、植物成長調整剤の使い方、農薬の特性などを学んでいくことになっており、りんご産業に携わる関係者や地域から今後の活躍に期待が寄せられています。

本市から受講する14人の皆さん

りんご剪定枝でマイ箸づくり

６月３日、北海道札幌市立西岡中学校の３年生104人が修学旅行で本市を訪れ、農作業体験を行いました。

生徒たちはグループに分かれ、受入農家の弘前里山ツーリズム研究会（田中幸樹会長）会員の畑で、りんごの実すぐりや野菜苗の植え付けを体験したあと、中央公民館岩木館に集まってりんご剪定枝を使った箸づくりに挑戦。

会員から剪定バサミやカッターの使い方を教わった生徒たちは、剪定枝に慎重にカッターの刃をあて丁寧に箸先を削り出し、好みの長さや太さに仕上げていました。

生徒たちはこのほかにも、タケノコの皮むきや夕食の準備を会員たちと一緒に行いながら交流を深めていました。

本市を訪れる人との交流により地域が元気になるグリーン・ツーリズム活動に興味のある方、または受け入れてみたい、という方は問い合わせ先へご連絡ください。

■問い合わせ先　弘前里山ツーリズム研究会事務局
田村さん　☎83－2324

夢のある農業とくらしを目指して

男女が互いに尊重し合いそれぞれの個性と能力が十分に発揮できる男女共同参画社会の実現を目指し、女性の起業活動に対する支援など、女性が活動しやすい環境づくりに向けた取り組みが進められています。

女性起業家ステップアップ講座

【女性起業家ステップアップ講座】

中南地域県民局地域農林水産部による「平成二十年度第一回女性起業家ステップアップ講座」が六月十七日、蔵主町の県合同庁舎で開かれました。

講座には、加工や直売活動に取り組み起業化を目指す女性農業者二十六人が参加しました。

地域資源を有効に活用し、消費者の視点に立った売れる商品づくりを進めようと開かれた講座では、中南地域での起業活動の様子や、売れる商品づくりを進める手順についての講義がありました。

また、起業活動に活用できる事業の説明もあり、参加者はメモを取るなど熱心に聞き入っていました。

地区検討会に出席したVic・ウーマンヒロサキの佐藤芳子会長。自身が結んだ協定の良かった点について述べていました。

【男女共同参画地区検討会】

六月二十三日には、中南地域県民局地域農林水産部普及指導室と中南地域の市町村、農協の関係者及びVicウーマンなど二十三人が集まり「男女共同参画地区検討会」が県合同庁舎で開かれました。

中南地域における男女共同参画の状況について理解を深めたほか、環境づくりの手段の一つである家族経営協定の普及に向けた取り組みなどについて意見が交わされました。

さくらんぼ狩り交流会

～素敵な出会いを求めて～

独身の農業後継者で組織する弘前市青年交流会実行委員会（福嶋孝行実行委員長）は、七月六日、さくらんぼを始めとする初夏のフルーツを味わいながら新たな出会いを見つけようと、さくらんぼ狩り交流会を開催しました。

当日は、晴天の中、男性二十一人と女性二十六人が参加し、会場となった市内十面沢の森の中の果樹園では、男性が女性へさくらんぼを取ってあげる光景も見られるなど、初対面とは思えないほど打ち解け合っていました。

その後、会場を鰺ヶ沢町のホテルに移し、食事をしながらの交流パーティーでは、更に交流を深めようと参加者同士の会話も弾んでいました。

青年交流会実行委員会　会員募集

弘前市青年交流会実行委員会では一緒に交流会を企画・運営する実行委員を募集しています。

要件は、市内に住む独身の農業後継者（おおむね20歳から40歳）。楽しい交流会を一緒に考えてみませんか。

■問い合わせ先　弘前市青年交流会実行委員会事務局（農業委員会農政係）　☎82－1638

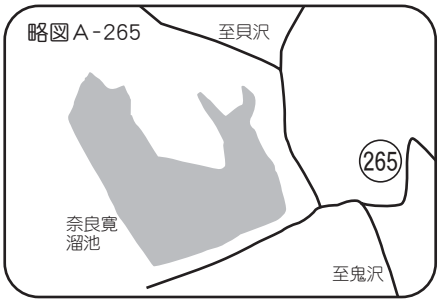
家族経営協定とは…

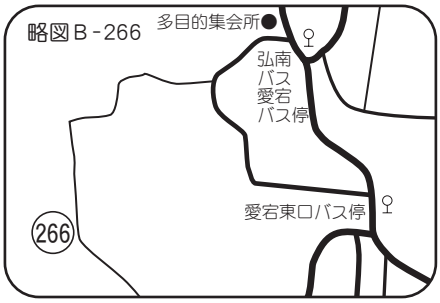
農業経営に対する考えや夢、報酬や休日の就労環境などについて、家族みんなで話し合い取り決めるものです。詳しい内容については、
農業委員会事務局☎82－1638又は、
中南地域県民局地域農林水産部普及指導室
☎34－2136までお気軽にお問い合わせください。

農地流動化情報（新規）

申出区分	略図	農地の所在	利用状況	面積	希望売渡価格	取扱窓口	備考
売りたい	A-265	鬼沢字猿沢	休耕畑	105.37a	総額100万円	①②	貸借も可
	B-266	愛宕字山下	りんご	97.74a	10a当たり70万円	①②	分割売買も可

区分	希望地区	利用目的	面積	希望小作料
借りたい	高杉	りんご	50～100a	10a当たり1万5千円





■取扱窓口及び問い合わせ先

①【岩木地区】農業委員会事務局（岩木庁舎1階）☎82－1638

②【弘前地区】農業委員会弘前分室（市役所新館2階）☎35－1111内線357

③【相馬地区】農業委員会相馬分室（相馬庁舎2階）☎84－2111内線840

お知らせ

津軽みらい農協発足

みらいに向かって、新たなスタートを切りました。

七月一日、津軽石川・津軽みなみ・黒石市・常盤村・津軽尾上・いたやなぎの六農業協同組合が合併し、「津軽みらい農業協同組合」が発足しました。

二〇〇七年六月末の実績によると、正准組合員数が一万七千五十七人、販売品取扱高二百三十三億七千三百九十三万円と、いずれも県内最大の規模となります。

なお、石川地区の店舗名等は次のとおりです。

◆**店舗名**…津軽みらい農業協同組合石川支店

◆**住所**…石川字家岸45－3

☎92・3311

新農業委員紹介します

平成20年7月1日から、新たに「津軽みらい農業協同組合」が発足したことに伴い、津軽みらい農協推薦の農業委員が7月2日付けで選任されましたので、紹介します。（敬称略）

◆退任者　相馬清三

小田桐　高　夫
【農地部会】

自然災害に負けるな！

地元有志が応援 コンサート開く

自然災害に負けずに頑張ろうと、三和地区の有志によるチャリティーコンサートが七月二日、三和集会所ジョイで開かれました。

「地域を元気づけたい」と、農家の小野誠一さんをはじめとする地元有志の思いと、県内で活躍する女性グループ「サエラ」が「農家を励ましたい」との思いが重なり実現。

「サエラ」の素敵な歌声と軽妙な会話を、集まった観客は笑顔で聴き入っていました。

平成21年度 地域担い手経営基盤強化総合対策実験事業要望について

事業内容	この事業は、農業用機械・施設の導入及び土地基盤の整備等に要する経費のうち、金融機関からの融資額を除いた自己負担部分に助成する事業です。
助成基準	○経費のうち融資額が50パーセント以上であること。 ○経費が50万円以上であること。
助成率	経費の30パーセント以内
支援対象者	①…認定農業者 ②…認定志向農業者 （３年以内に認定を受ける者） ③…集落営農組織 ④…①から③で組織される営農集団
その他	要望については、平成21年度の事業申請の参考とするものですが、今年度事業の対象となる場合もあります。
申込・問い合わせ先	弘前市担い手育成総合支援協議会 （農政課農業振興係内）☎35-1111 内線709

◆申込方法・期限

平成20年８月29日（金）までに、電話により申し込みしてください。

近年 続く異常気象に備えて

りんご共済

安心のネットワーク NOSAI

『被害限定補償』

来年産申込受付中！

【対象となる災害】…風害・ひょう害・凍霜害。

【対象となる割合】…２割～３割以上の被害から共済金が支払われます。（加入方式によって異なります。）

【掛金と補償額】…申込は箱数で申し込みます。

掛金は１箱 50円前後（品種・加入方式等によって異なります。）

補償額は１箱 2,300円前後（品種によって異なります。）

りんご共済にはこんなメリットが

※掛金の半分は国が負担！

※防風ネットがあればさらに割引！

※3年間被害が無ければ掛金の一部を払戻し！

詳しくは ひろさき広域農業共済組合まで

☎28－5700